

三のしきたり

日本人は数字にこだわる人が少なくありません。数字に込められた日本人の知恵と伝統について触れてみたいと思います。

三月三日は五節句のうちの上巳節句と言われます。「雛祭り」として定着していますが、元々は古代中国の風習が伝わり、平安時代に宮中で「上巳の祓(はら)い」という行事が行われてきました。川上から杯を流し自分の席に着くまでに歌を詠む「曲水の宴」が行われ、この席に桃の花を添え、白酒を飲んだので「桃の節句」と呼ばれるようになります。

神前結婚式では「三三九度」の儀式が行われます。

一の杯(小) 二の杯(中) 三の杯(大) から三度ずつ合計九回御神酒を口にすることから「三三九度」と言われるようになりました。

角界の「三役」は大関、関脇、小結、出世に必要な「三徳」は、心技体です。

「三気」は根気、元気、勇氣です。気をつけなければいけない「三念」は雑念、妄念、邪念をさすことです。

出世に必要な「三しない」は病気をしない、怪我をしない、気にしないとされています。

「三年先の稽古」もあります。厳しい辛い稽古も三年先花ひらくことを信じて、努力を重ねていくことの大切さを教えてくれる言葉です。角界には一般にも十分通じる意味深長な言葉が沢山あります。

○三月の言葉

全てのことは、進歩を目指さなければ、退歩を余儀なくされる。

○三の「名数」チエック
同様のものを幾つか集めて総称することを名数と言います。

次の名数を説明せよ。

- ① 徳川幕府の御三家
 - ② 日本三景 ③ 日本三名園
 - ④ 三筆(優れた三人の書家)
 - ⑤ 三大祭り(京都・東京)
- (解答)

① 尾張・紀伊・水戸 ② 宮城県
の松島、京都府の天橋立、
広島県の厳島 ③ 金沢の兼六園、
岡山の後樂園、水戸の偕楽園
④ 弘法大師、嵯峨天皇、橋逸勢
⑤ 京都では葵祭、祇園祭、
時代祭、東京では日枝神社の山王祭、
神田明神の例大祭、
深川富岡八幡宮の例祭